

第4回 北部地域医療勉強会

在宅診療とオンライン

名嘉村クリニック

名嘉村敬

本日の内容

- 1 当法人の訪問診療について
- 2 オンライン診療の実際
- 3 北部地域でやっていきたいこと

本日の内容

1 当法人の訪問診療について

2 オンライン診療の実際

3 北部地域でやっていきたいこと

医療法人 HSR の意味



Home Care

在宅ケア



Sleep

睡眠



Respiration

呼吸ケア

名嘉村クリニック

外来診療
訪問診療
総務・財務・人事労務
運営支援室
DX企画推進室



在宅ビル



訪問看護ステーション名嘉村
ケアプランセンター名嘉村
総合リハビリテーション部
うらそえ看多機ホーム名嘉村
うらそえ定期巡回ステーション名嘉村

なは定期巡回ステーション、那覇市包括支援センター松島
看護小規模多機能居宅介護末吉、那覇市短期集中地域リハビリ教室

職種・職員数（2025年10月現在）

医師（常勤）	12
医師（非常勤）	17
薬剤師	1
保健師	1
看護師（外来・訪問）	55
放射線技師	2
臨床検査技師	8
理学療法士	9
作業療法士	5
言語聴覚士	2
健康運動指導士	2
管理栄養士	1
社会福祉士	2
介護福祉士	17
ケアマネジャー	16
ヘルパー	4
事務職員（請求事務含む）	49
システムエンジニア	4
清掃・洗淨	1
夜間検査補助者	9
合計	217

訪問診療メンバー



訪問診療

医師：常勤 7人、非常勤： 4人、常勤換算：5.1（外来訪問診療兼任医師含む）
看護師： 7人、 総合事務： 8人（相談員1人）
患者数：訪問診療 408人（3月21日時点）、 特別養護老人ホーム 約100人
看取り件数（2025/3月-2026/2月） **124人（自宅44人、施設40人、特養40人）**
訪問診療でのオンライン診療（2025/3月-2026/2月） **往診58件 + 特養15件**

24時間対応・看取り対応

認知症、呼吸不全、悪性疾患、間質性肺炎、神経疾患

モルヒネ使用症例、人工呼吸器、昇圧薬使用の末期心不全
体腔穿刺、在宅輸血、胸腔ドレーン管理



1. 迅速で確実な対応により、地域から信頼されるチームになる
相談・受け入れ・情報提供を丁寧かつ迅速に行う。
2. 先手で動き、不安と悪化を防ぐ
病状悪化が疑われる場合は日中に対応し、求めがあれば往診・連携を行う。
3. 難しい患者ほど前向きに受け入れ、在宅でできる選択肢を広げる
新しい医療行為もチームで流れを確認し、経験を次に活かす。
4. 患者・家族の希望を丁寧に聴き、最善の選択を支える
「どこで・何のために医療を受けるか」を共有し、不必要な搬送を減らす。
5. 医師は診断と治療方針を明確にし、チームに共有する
方針はツールで速やかに共有し、看護・介護が動きやすい状態をつくる。
6. 一人で抱え込まず、困ったらすぐ相談する
対応困難例は定期的に振り返り、主治医不在時も患者が困らない体制を保つ。
7. 職種ごとに学び続け、できることを増やす
医療知識・制度・算定をアップデートし、チーム全体の力を高める。
8. 地域の事業所の状況を把握し、各医療機関・事業所と連携を深める。
在宅医療を提供する診療科（皮膚科、眼科、精神科、歯科など）と連携し、患者さんの困りごとに応える。
9. 仕組みとツールを活用し、楽しく・多くの患者を支える
ICT・AI・オンライン診療を活用し、効率と質を両立させる。

本日の内容

1 当法人の訪問診療について

2 オンライン診療の実際

訪問診療でのオンライン診療（2025/3月-2026/2月）

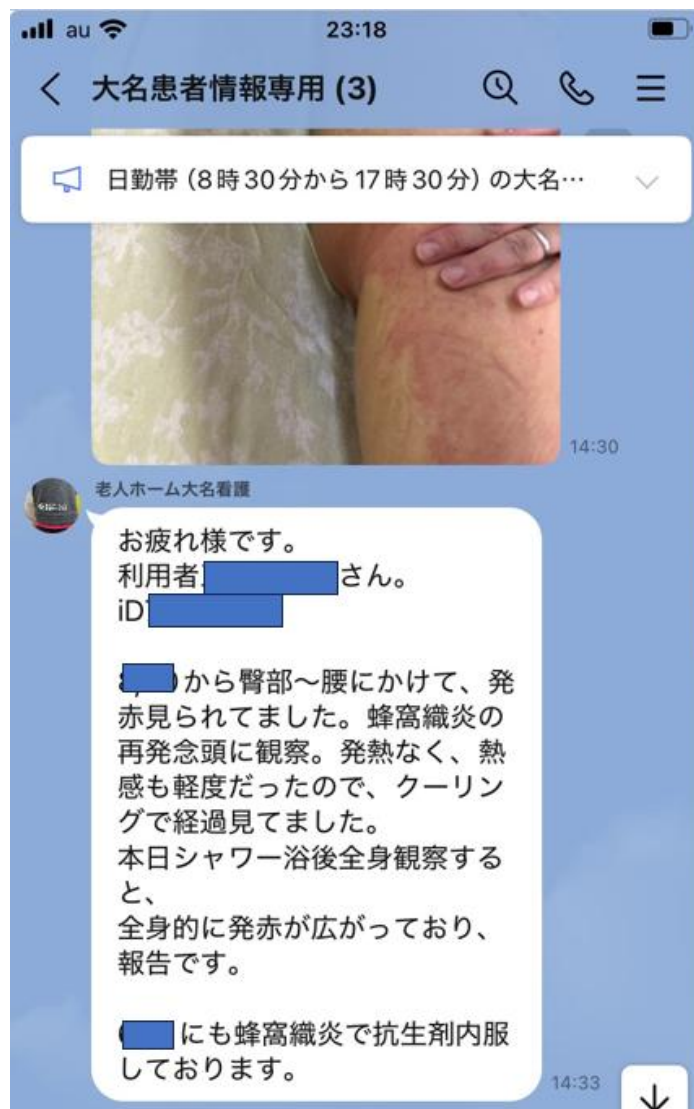
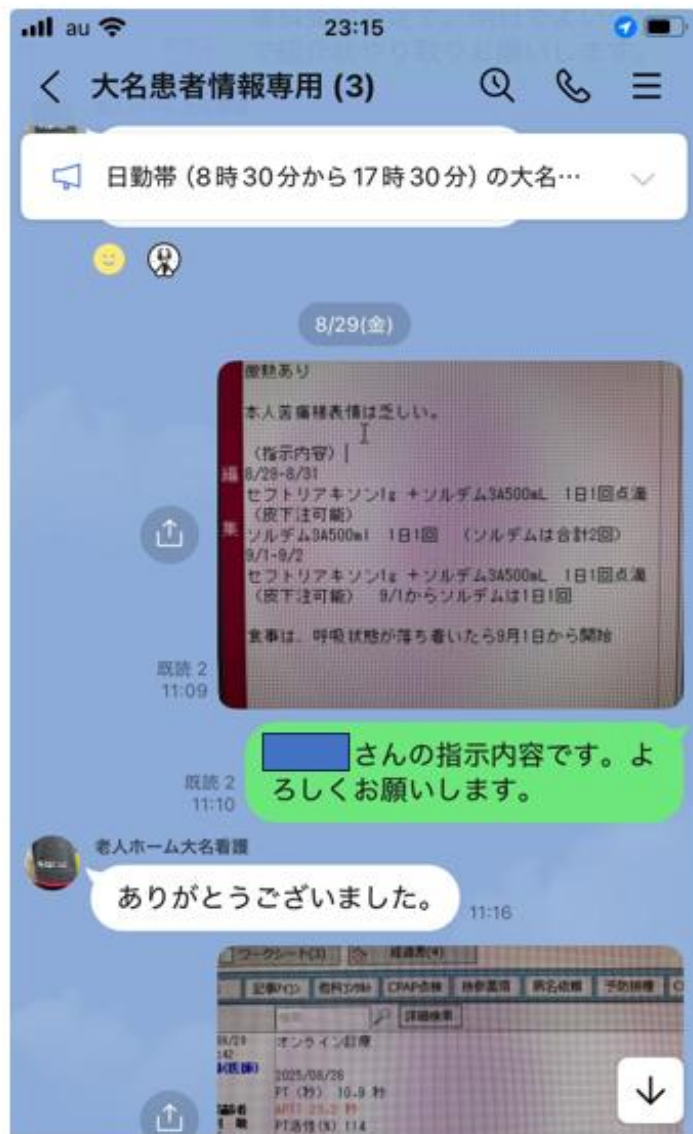
往診58件 + 特養15件

3 北部地域でやっていきたいこと

薬調整・病状悪化時はすべて往診



オンライン診療とLINEを駆使



皮膚科近医紹介
→ 病院紹介

基本は D to P with N

感冒症状

急性気道感染

COVID-19、インフルエンザ

→ 全身状態確認、看護のアセスメント、患者への方針説明、薬の処方、点滴の指示
在宅酸素の開始

訪問看護からの連絡で褥瘡の確認

患者さんへの説明

間質性肺炎など急な悪化 → 搬送するかどうかの判断

高齢者の急な経過での悪化 → 看取りについてお話

オンラインでの緊急のミーティング

移動中などに 多職種ミーティング

終末期患者さん午前往診でモルヒネ開始の方針 → その後多職種ミーティングオンラインで参加

オンライン診療を行う所感

外来や訪問診療の車内移動中に対応ができる

判断と方針決定が早くなる

もともとの信頼関係が必要

オンライン診療 → 往診のこともある

突発な対応（特に外来時）が増えると負担感はある

オンライン診療を通して改めて感じたこと

在宅医療のケアする側の主役は看護師、介護士

医師の役割

症状の改善、治療方針の決定、予後の共有

迅速性

安心と納得感の提供

ケア提供者が動きやすいようにする

組織のリーダーとしての役割

質を担保しながら、一人でも多くの患者さんに対応する
環境を持続可能な形で提供すること

本日の内容

- 1 当法人の訪問診療について
- 2 オンライン診療の実際
- 3 北部地域でやっていきたいこと**

沖縄県出身

貢献していきたい

北部

篠原先生

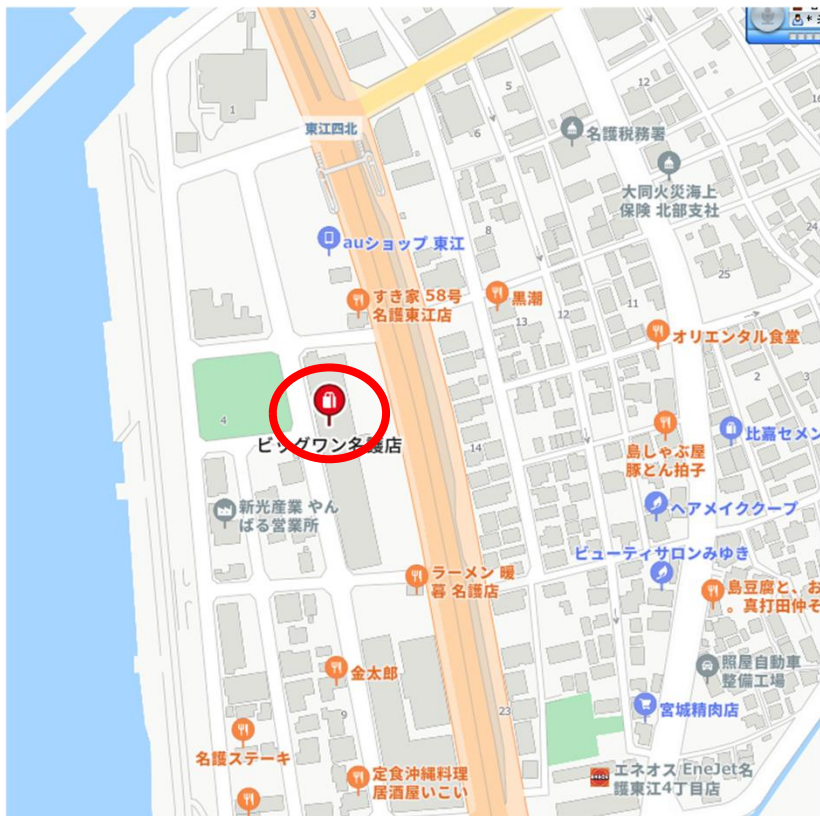
北部で訪問診療をやりたい

一緒にさせてほしい



2026年10月に開業予定

場所



ぜひ、私たちと一緒に働きませんか？

あなたのご応募心よりお待ちしております。

募集職種一覧

エントリー

当院の魅力

医療法人HSR
名嘉村クリニック

〒901-2132

沖縄県浦添市伊祖3-8-15

医療法人HSR 名嘉村クリニック

098-870-6602 (担当：宮城・沢田)

リクルートページより

地域のニーズに合わせて、実践していきたい

地域の医療機関と顔がみえる関係

病棟・地域連携室や入退院支援室に定期的に顔をだし、困っている患者さんの共有

在宅でできることを急性期病院やその他病院に知ってもらうこと

訪問看護との連携 直接やり取り・ツールを用いた共有

病院さんと相談したいこと

患者さんの希望があれば、早めに在宅へ引き継ぎ
看取りに関しては、患者さんと家族の不安が解消できたら、選択肢になる。
困ったときはケースごとに協議

私たちは地域を知ることが第一歩となります。

北部地域の包括ケアの少しでも役に立てるよう
取り組みますのでよろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました

みんな健康に！みんな元気に！

～Better Health, Better Life. We Can Do it!～